

平成26年度学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業

# 学校支援実践研修会

◎期 日:平成26年12月3日(水)10:00~13:15

◎会 場:田村市立常葉小学校

## 【研修内容】

◎田村市立常葉小学校での学校支援活動参観！

◎手打ちそばときわ会の学校支援にかかわる実践発表！



## 【目 的】

学校支援事業や放課後支援事業の先進的な取組の実施状況を見学し、成果や現状について協議するなど実践を学ぶための研修会を行い、事業への理解を深め関係者の資質向上を図るとともに実施校の拡充を図る。

## 【主 催】

福島県教育委員会

受付) 10:00~ 常葉公民館

10:15 ~10:20 ◇開 会  
・あいさつ ・諸連絡

移 動(ワゴン車で)

10:30 ~11:00 ◇支援活動参観  
常葉小学校 第6学年  
「総合的な学習の時間の授業での  
そば打ち支援」  
○指導者「手打ちそばときわ会」

11:10 ~12:00 ◇質疑応答・情報交換(交流会)  
○事例発表  
「学校支援にかかわる実践」  
○情報交換  
\*日頃の取組や悩み等について

12:00 ~12:30 ◇給食見学

12:30 ~13:00 ◇そば試食  
○手打ちそばときわ会の皆さんが打った  
そばを試食させていただきます。

~13:15 ◇閉 会

移 動(ワゴン車で) \*常葉公民館にて解散



## □ 支援活動参観

### 「総合的な学習の時間でのそば打ち体験支援活動」

田村市常葉学校支援地域本部コーディネート

田村市立常葉小学校 第6学年 ボランティア「手打ちそばときわ会」

- 子どもたちは、1班3～4名の5つの班に分かれてそば打ち体験を行いました。子どもたちの体験を支えるボランティアは、手打ちそばときわ会の皆さんで、この日は会長さんをはじめ4名の皆さんでそばの打ち方を指導していました。
- まずはじめに会長さんから使う道具の種類や名称、使い方や気をつけることなどについて説明がありました。そのあとときわ会の方が各グループに入り、子どもたちと自己紹介をしましてそば打ちに取り組みはじめました。
- この日打つそばは十割そばで、つなぎがないのでなかなか難しいのですが、毎年支援に訪れているときわ会の皆さんは、子どもたちが取り組みやすいようにポイントを押さえながら支援していました。



○ときわ会の皆さんに温かく支援されてできあがったそばを全校生でおいしくいただきました。6年生の姿には、やり遂げた喜びと最上級生としての誇りを感じることができ、ボランティアによる支援の重要性を改めて感じました。



## □ 実践発表

### 「学校支援にかかわる実践」

発表者：田村市学校支援地域本部常葉地域教育協議会長

手打ちそばときわ会会長

吉田 忠 氏

- 平成5・6年とPTA会長を務めてから学校に進んで出向き、学校との関わりを持つようになった。
- 学校支援本部が平成20年に常葉で開設された当初から関わってきている。
- そば打ちをはじめたのは、防犯ボランティアに参加したときに体験したそば打ちが機会であり、手打ちそばときわ会は平成17年に発足した。
- 地区の防犯教室や芸能祭などでそばの提供とセットで防犯に関する学習会を行っている。また、中学生と一緒に老人ホームを訪れ、ときわ会はそばを提供し、中学生は話し相手となる、学校と連携した活動を行っている。
- 学校と関わることで自分自身が元気になる。多くの人に学校と関わってもらい学校と関わることの良さを感じてもらえればと思っている。



## 質疑応答

Q：そば粉などの経費はどうしているのか。

A：学校に負担してもらっている。今日のそば粉は、自分たちで栽培したものを使用した。

Q：今回の活動は、どのようにして学校の計画に入れてきたのか。時間をどうやって確保しているのか。

A：次年度の計画をたてる段階で、学校支援本部事業に関わる内容を検討し、教育カレンダーに位置づけている。時間については、総合的な学習の時間で行う活動であるので無理なく設定できている。

Q：今日以外には、どのようなボランティアを行っているのか。

A：学習、体験活動、スポーツ、図書、安全活動、環境整備、イベント補助などの活動がある。

Q：講師の謝金は、どうしているのか。

A：教育委員会からの総合的な学習の時間の補助金を活用している。

Q：今回の活動を行うためにどのくらい打合せをしたのか。

A：学校・公民館・そばの会で協力して行っている。実際に会ったの打合せ以外にも電話で密に連絡を取り合っている。

○発表の中で「学校の敷居は高くない。」との話があったが、まずは、そこから取り組んでいきたい。



## □ 情報交換

### 行政関係者グループ

○謝金や材料費について、学校支援本部からは支出できないが、活動によっては出さないと申し訳ないものもある。

○お金という形ではなく子どもたちから礼状や感謝の言葉などを伝えている。

○材料費は、学校に負担してもらっている。また、要請に応えられないものもあるので、断ることも大切である。

○今まで実施してきたものや他の地域で行っていることの情報から支援できることを学校に伝えている。

○コーディネーターの選定は、地元にも明るい人で、ある程度時間に融通のつく人がよい。元PTA会長さん、元公民館長さんや学校からの紹介などによって選んだ。

○放課後子どもクラブと学校支援本部での業務時間が重ならないようになっていけば、コーディネーターは、両事業を兼務できる。ただし、日誌等で勤務内容がはっきりと分かるようにしておく必要がある。

○ボランティアはどうしても高齢化し、徐々に人数が減ってきている。60代の人の参加を考えた。



### コーディネーターグループ

○伝統文化に関するものができる人が少なくなってきており、ボランティアの名簿を作り直すように考えている。ボランティアは無償で行ってもらっている。

○コーディネーターは2人体制で行っている。育児サークルやシルバー人材センターの方にボランティアとして関わってもらっている。学校の敷居は低くなったように感じる。

○連絡協議会の立ち上げができていない。ボランティアをしてくださる方を探している。

○今年で3年目となる。市の予算を活用したボランティアもある。ボランティアは、生きがいにもなっている。

○PTAとのすみ分けが必要だと思う。ボランティアは、69名登録している。座禅体験の活動を行った。

○全校生で地域交流活動を行っている。昔遊びや戦争体験の話などを支援した。

○今年からコーディネーターをしている。ボランティアを集めるのが難しい。マラソン大会の手伝いを行った。

○学校からの要望があまりない。学校独自に行っているものもある。マラソンコースの整備を行った。



## ◇参加者の声・感想等

○地域で根付いた団体の活動は素晴らしいと思う。

○地元で活動されている方々が児童に直接指導することは、本事業の目的に合致しておりとてもよい事例でした。

○支援には関わっている方々がとても気さくに子どもたちに話しかけていて、和やかな雰囲気の中で体験できているのが印象深かったです。



今回は、各地域の学校支援本部のコーディネーターや行政関係者の方14名の方が参加されました。また、田村市教育委員会、常葉小学校並びに手打ちそばときわ会の皆様の御協力で行うことができました。ありがとうございました。

次回は1月に郡山市労働福祉会館で実施する予定です。多くの方の参加をお待ちしています。